

長畝ふるさと通信

【2011年6月号】

■ 佐渡が世界農業遺産に認定！



6月11日、国連食糧農業機関（FAO）から佐渡市と石川県・能登半島が、先進国でははじめて世界農業遺産と呼ばれる「世界重要農業遺産システム（GIAHS・ジアス）」に登録されるとともに、正式に認定されました。佐渡はトキと共生するための減農薬稲作の取組が評価されたもので、まさに、「朱鷺と暮らす郷・ながうね」が注目されようとしています。より美味しい、より安全で皆さんか

ら愛される農業を目指して、これからも頑張っていきます！

■ 生育は順調です

春先の天候不順でやや遅れ気味で推移していたコシヒカリの生育は、6月の好天によりほぼ平年並みに追いついてきました。現在は「中干し」に入っています。中干しは生育調節の他に田んぼに酸素を供給したり、溝を掘ることによって（右写真）迅速な水のかけひきをする効果があります。



ただ、溝切りは左写真のように田んぼの中を機械を押しながら溝を切っていく作業でけっこうきついです。6月3週目に実習にきた東京農大の学生も悪戦苦闘していました。



■ 無農薬栽培がピンチです



無農薬栽培がピンチです。雑草が繁茂して苗の生育を邪魔します。何日も田んぼに這いつくばって除草作業をしましたが、とうとう心が折れました。そしてさらに泥負い虫が大発生し、苗を丸かじりしています。右の写真で苗にくっついて黒い物体が泥負い虫(泥負いと言いますが、実際は体の乾燥を防ぐために自らの排泄物・ウンコを背負っているんですけど・・・)で苗の緑色が食害によって白くなっています。雑草も泥負い虫も農薬を使えば簡単に一掃できますが、それでは無農薬栽培になり得ません。自然の力は恐ろしいものです。反対に農薬はもっと恐ろしいとも言えます。農薬のおかげで稲作は効率的に安定した収穫を得ることができるようになりましたが、その反面、赤とんぼが群生して舞う風景も消してしまいました。東日本大震災で大問題になった原発とかぶせて考えてしまいます。これからの農業のあり方、日本人の暮らし方を田んぼから発信していきたいと思えます。

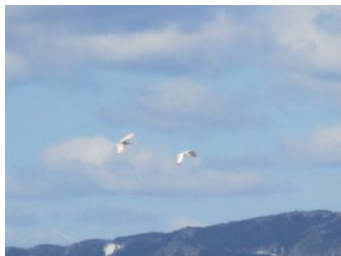


● こんな心強い応援隊が

東京のNPOめだかの学校の皆さんが今年も田の草取りツアーで来てくれました。竹ぼうきを改良して作った竹ぼうき除草機を田んぼ中引っ張ってくれました。東京農大の自習生も3日間、ただひたすら無農薬田んぼの雑草取りをしてくれました。感謝・感謝です。もちろん、うちのお米を食べてくださる皆さんも立派な応援隊です。ありがとうございます。

■ ながうねの田んぼは生きものいっぱい

春から見つけた田んぼの生きものたちをご紹介します。田んぼから様々な命が生まれ育っています。



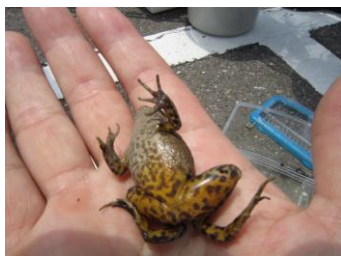
大空を羽ばたく野生の朱鷺



寒さに耐える白サギ



卵を必死で守るキジ



佐渡特有のサドカエル



巨大なウシガエルのお玉



モリアオガエルの恋人



畔で産卵する草亀



羽化直前のヤゴ



群生するホタル

■ お中元に「朱鷺と暮らす郷コシヒカリ」をお使い下さい。

お中元の時期になりました。ぜひ、ながうね産「朱鷺と暮らす郷コシヒカリ」をご利用下さい。注文書を同封いたします。お電話、FAX、メールでも受け付けておりますのでよろしくお願いいたします。なお、23年産米の年間会員申し込みは7月のふるさと通信と一緒にご案内させていただきます。引き続き、ご愛顧いただきますよう、重ねてお願い申し上げます。